

2016年9月23日(金)晴れ。ナナロク社の村井さんにメールを送る。「2014年から描き続けてきた1ページ漫画の本を一緒に作って頂けませんか?」実は村井さんにごうごうお願いしたためたのはこれで二度目。2015年の11月に、今回と同じ依頼を便せんじにまとめ、1ページ漫画数十本を添えて送らせてもらった。その時は、「面白いです。でも自分の気持ちとしてはナナロク社で出版するまでには至らない」ということだった。その後、数社から単行本の依頼を貰っていたけれども、この1ページ漫画の本はナナロク社と作るのが一番面白くなりそうという予感がずっと頭にあり、断り続けてきた。そして今日、だめもとで再び依頼を送信したわけである。お返事を待つ。* ナナロク社は現在、代表の村井さんを含めて三人で動いている出版社。小さな出版社だから心もこもった良い本を作ってもええぞ、という安易な考えでナナロク社を選んだわけではない。良い本ができることと出版社の大きさとは関係ないと思うが、ただ自分の場合はブックデザインや売り方に関して、たぶん普通の作家よりも色々こだわりたいので、ほとんどのことをお任せするのはではなく細かくとも一緒に考えて作っていくのができそうなお社がよかった。でもやはり一番の理由は、ナナロク社が自分の好きな本をたくさん出している出版社だったから。川島小鳥さんの『未来ちゃん』『明星』、ウィット・ポンニミット(タムくん)さんの『ヒーローザットリジーズ、屋敷裕太さんの『へろへろ……』。自分と同じく、Twitterに1ページ漫画をアップし続けて名前を広めてきた史群アリスさんのデビュー単行本『史群アリス作品集 今日』の漫画が良かったことも大きい。多くのWEB発単行本からは感じられないこだわりがあり、「べつにフォロワーやリタイナー数が多いだけだとしてもこの人たちはこの本を作ったんだろう」と思わせる、丁寧に編まれた本。

2016年10月7日(金)晴れ。梅田の本屋をぶらついてる時に、ナナロク社・村井さんからメールの返事! 藤岡さんの考えなどをちょっと聞いてみたい、一度お会いしたいかな、と。16日に村井さんが書店イベントのため大阪に来るので、そこで会うことに。浮ついた足取りで店内を巡る。買った本はレイモンド・カーヴァーの『頼むから静かにして(1)』。夜、バナナマンのDVD『bananaman live Love is Gold』を観る。日村さんの表現力にぶっ飛ばされる。「the Supertura」というコトで日村さんが演じる「ヒムドン」がすごかった。

2016年10月16日(日)晴れときどき曇り。夕方、心斎橋のスタンダードブックストアの 카페にて、ナナロク社の村井さんと初対面。本屋併設のカフェ、せなかそばにたくさんあってそれをを見ながら話してませんかというところで、コービーを飲んだあとは本棚を巡りながら色々な話をさせてもらった。もしナナロク社で出版できるなら、どうすればいい本になるだろうか、それをじっくり考えてから決めたい、というのが、今日、村井さんが一番伝えたかったことのようにだった。この日の最後は、新作1ページ漫画をもう5本描いてみてくれませんか、という事になった。その5本を見てからまた色々話したい。と。村井さんと別れた後、すっから暗くなった御堂筋を梅田駅まで歩きながら、さっき話したことを反芻しながらアイデアや考えを巡らせた。

2016年10月17日(月)曇り。村井さんが昨日の会話の中で、「夏がとまらない」という1ページ漫画が特に好きだと仰っていて、それと絡めて藤岡の作家性についてこの意見を少し話してあげた。あの話、改めてちょっと詳しく聞かせてもらってもいいでしょうか? というメールをお送りする。

2016年10月19日(水)曇り。村井さんから「夏がとまらない」についてのメール。以下、その全文。(掲載許可もりました) なにか新しいヒントを掴んだ気がした。————— 藤岡さん、こんばんは。ナナロク社の村井です。どうだかとしているうちに、メール、遅くなりました。さて、先日のお話をした、「夏がとまらない」についてですが、つぎのよう考えています。見たことがないのに、見たことがあるように感じる、はじめてみるのに、思いつくようにとらえられるもの、そして、おかしみが感じられるもの。これが、私が「夏がとまらない」といったもの』について、言えることです。藤岡さんの作品は全般に、いわゆる「あるある」ではなく、むしろ、そんなこととは全然ない「ないない」なのですが、それを、「あるある」のように描いているのにも、私は、面白いと思っているところで。ただ、藤岡さんの独自性を強めることとして、季節の風情や、懐かしさや、あるいは優しいといったようなものが、感じられる作品を読みたいと思います。ここからは、書いていて難しな作品なのですが、なので読んで意味がとらえにくくても、それは藤岡さんのせいではないので、気にせず読んでください。とりあえず、書きます。私は、先に逃げたい笑いで、笑えるものが、読みたいのです。すでに、多くの芸人や喜劇者によって、笑いの類型はたくさん出しております。それにより、読者、受け手も、かなり、訓練されてしまっています。良い面もあるのですが、ある点でこの形で、笑いとして受容してしまうことが、あるかと思ます。なんとなくこうすると不条理な笑いのようなな、とか、こは多少乱暴に終えても大丈夫だなとか、藤岡さんの作品がそういう作品という点ではないのですが、笑いを作るうえで、先に逃げ込む要素は、いままでも多いように思うのです。そういったなかで、藤岡さんの作品を読むと、心のなから、なにかが反応してくる、なにかを思い出す、といった、笑いとこのをつまみぬいた何か(それは笑いのなかで、見てみたい)と思いました。そういうなか、私として、「夏がとまらない」は、よい作品です。まあ、つらつら書きました。意を尽くせませんが、このまま送ります。創作のご武運をお祈りしております!! 村井光男

2016年11月25日(金)晴れ。今日やっと新作5本がたまったので、村井さんにお送りする。また近く大阪へ行くので話しましょ、と返信あり。

こんな制作日記も読める。

「夏がとまらない」特設ページ：www.takutaro.com/natsugatomaranai

2017年1月24日(火)曇り。例の新作5本を送ってから、年も明け、2ヶ月が経つ。今どういふふうなお考えでしょうか、と村井さんにメール。もっと早く連絡を取ってよかったのか、このところキヤグ漫画合同誌(風見2さんに誘ってもらった)に載せる短編『サーレット』を描くのにいっぱい悩んで、それに1ページ漫画はスランプ続き、年が明けてからも全然描けていなかったの何となく喜びが悪くて先延ばしにしていたのである。ずっとである、やあらんが。村井さんより返信。さっと思っていろいろだがこれといった答えがまだ出ていない、とのこと。また近々連絡します、キラキラしたものの面白いものを作りたいと思っています、と。面白い本とは何なのだろうか、と改めて自分でも考える。* 最近、どうしてWEBで活動している漫画家やライターは、すぐ本を出したがるのか。ステイラス上げたいのか、ハクを上げたいためのなかというつぶやきを目にした。自分に向けられたつぶやきじゃなかったけれども、考え込んでしまった。自分はずえTwitterやInstagramで読まれるだけでは満足せず、「本」が作りたいのだろうか? それも電子書籍でなく紙の本を。自分は今まで「紙の本」を買って本を読んできた。電子書籍はどうか肌にかわいないのでまったく利用していない。もちろんWEBマンガやブログなどは日常的に読んでいるし、有料メルマガを購読したり、有料記事を購入することもある。自分でも「キヤグ漫画の話」という有料の記事を公開したりしている。これまでに読んできたいくつもの素晴らしい本を、もし電子書籍で読んでもいいとしても、当然、感動したと思う。紙やパソコン、タブレット、何で読んでも良いものは良い。(そうでなければ自分もWEBで作品を発表したりしたい) 先ほどの疑問のつぶやきも自分が答えるとしたら、それは単純に紙の本が好きだからだと思う。紙の本はデータではなく、実際にもものとして存在する。その実感が好きだ。「これおもしろかった」とデータやリンクを送られるより、紙の本を手渡されるほうが好きだ。本という形にまとめることで伝わるものが増える気がするから、本を作りたいと思う。* とにかく、これから本を作って、読んで手に取って読んでもらったとき、なんかWEBで読んできた時の方が面白かったな、と思わせたくない。WEBで発表されたものをまた読む本を読んだら、そういうことで結構あるから……。例えば、本という形にまとめることでWEB掲載時には絵にならなかつたところかむしろ魅力でもあった絵や文章の「雑さ」が残念に思えた。無駄乾燥なホームページやブログにぶっさらばっさらアップされていたことの複雑な魅力やカッコイイ感じ……。そういう背景がなくなると綺麗な本におさまった途端、なんだかつまらないものと思えてしまった。本にするなら、その本ならではの面白さを新たに作りたい。自分ら、本を出したあともWEB上から作品は一切消さない。WEB上で全部読めるけど欲しいと思わせるような本を作る。適当なメモ。Twitterで発表する漫画は打ち上げ花火。本は手紙。

2017年2月7日(火)晴れ。村井さんよりメール。小中学生の頃のエピソードをもとに短編を書くことはできないでしょうか、と1ページ漫画に加えて、なにか未来を見せる作品、そういうものも入れることができれば、ただ消費されるだけではない、かけがえのない本になると思う、とのこと。2日に村井さんが大阪に来るのでまたお会いすること。2月2日にアップした1ページ漫画『オレオレ電話』がTwitterで6万リツイート。たぶん今までが一番読まれた作品になった。嬉しいけれど、笑いの部分というよりは一種の「共感」のところウケているようである。夜、DVDで『トークトゥー・ハー』(2002年スベイン/監督:ペドロ・アルモドバル)を観た。面白かった。

2017年2月22日(水)晴れ。昼、梅田で村井さんと待ち合わせ。淀屋橋方面へ向かって歩きながら(さ、あ、どういう本にしましょ!) 藤岡「本に載せるの、描きおろしの漫画でもいいんですけど、文章とかどうですかね、短いエッセイみたいな」村井さん「文章いいですよ」藤岡「さっさ来る前に本屋でこれ買ったんですよ(灰谷健次郎・編、長新太・絵というおもしろい)村井さん「最高です」藤岡「紺田のシカクという本屋さん知ってます?」村井さん「シカク?」藤岡「そのシカクっていう本、結構わかりにくいところにある、一回頑張って行ってみたんですけど、あいてなかったんです。急な定休日なんですけど、村井さん! ……」(笑)藤岡「しまった、すこいオチのない話をしてしまった」村井さん「……」藤岡「……あいてないのかー!、と思っ」村井さん「あいてないのかー!」藤岡「(笑)村井さん!いけどもいけどもあいてないのかー!」でー本描けそうです」藤岡「あいてないのかー!」ですか? (笑)藤岡「巻末に解説とかあっても面白いですよ」村井さん「文庫本だと解説ってわりと書いてるんですけど、漫画の単行本ってほとんどなくて、もってあってもいいんですけどねえ」藤岡「ナナロク社の『ヒーローザット』シリーズとかはありますよ」村井さん「そうそう」藤岡「あれ見て、解説付いてるのいいなあと思って……まあでも自分の場合はキヤグ漫画なんでも、キヤグ漫画に解説つけているもの……」淀屋橋へ本町の川沿いや裏通りに2時間ぐらい歩き回りながら話し続けて、梅田に戻ってくる。とりあえず漫画が文章か、なんか書いてみます、と言って別れる。エッセイと官能小説を組み合わせた「濡れなすび」というのを前置きしたんですか……という話をしたので、帰宅後にメールでお送りする。

2017年2月23日(木)曇り。村井さんより返信。「濡れなすび」ととても良い、特に新聞配達の情報を重ねる部分が秀逸なので、この部分だけ新しく一冊にまとめるのはいかがでしょうか、と。うーん、官能小説の部分を抜くと笑いの部分が一掃消えてしまふので、その案は保留にさせていただきます、とりあえず新しいものを書いてみます、と返信。

2017年2月25日(土)晴れ。街を歩きながら新作1ページ漫画のネタ出しと単行本のアイデア出し。youtu be で2008年ごろの「くいちむしちゅーのオールナイトニッポン」聴きつ。前に深夜メルマガを発行してた

時に書いていたような、ラジオで喋ってるみたいな文章を書き十ページごとに載せるのはどうだろうか。真っ黒な見開きページの上に白い文字で。本屋でピースと吉さんの自由律俳句集『まさかジブで来るとは!』をめぐりながら、短い文章がうまく並ぶと、たまに放り込まれる写真が面白いアクセントになってるなあと思った。逆に1ページ漫画の本や写真集の場合、文章が面白いアクセントになるのでわああ! と声に出した。嘘。声には出してない。夜、DVDで『疑難の亭主』(1990年フランス/監督:ハロリス・ルント)を観た。変な映画。めっちゃよかった。

2017年2月28日(火)晴れ。今回の本、正方形サイズがいいのでは、と思いつつ、自分の2コマ〜3コマの作品の形に一番合いそうだし、真っ黒な見開きページを作るとして、それをひいた時、長方形よりも横の広がりが大きく、インパクトもありそう。

2017年3月1日(水)曇り。文字のラジオではなく、「真夜中の話」とも題した2ページのエッセイを数稿、数十ページごとに挟み込むのはどうか、早速、二編書いてみた。

2017年3月2日(木)晴れ。昨日書いた「真夜中の話」二編を少し直して、ナナロク社・村井さんに送信。正方形のアイデア、簡単に試作もしてみたのでその写真とともに送る。夜、かめめたるたのDVD『下品なクラブ』を観る。「脳 YOU!」というコトが最高だった。「脳が太るぞ!」オレこの喫茶店出るときいつも走ってる。

2017年3月7日(火)晴れ。村井さんより返信。正方形というデザインもいいかもしれないですね、正方形よりも少しタゲが長いでもいいかもしれない、まあでもデザインのことではデザイナーさんが決まってるから一緒に考えていきましょ、と、「真夜中の話」読み直した、改めて文章を活かすという形でもいいと思います、とのこと。夜、DVDで『インヒアレント・ヴァイス』(2014年アメリカ/監督:ホルト・マウス・アンダーソン)を観た。30分で脱走。この監督の映画にどっぷりはまれる人うらやましい。

2017年3月15日(水)晴れ。新作1ページ漫画『ギャル 怒りの高校受験』が2万リツイート超え。Twitterで作品発表を始めてから1万リツイート超えるは三度目。一度目は『はくのおじいちゃん』これは皮肉の部分がウケてたのだと思う。二度目は『オレオレ電話』これは共感の部分で広まったのだと思うが、今回は皮肉も共感もなく、ただばかばかしいだけなので、このヒトは嬉しい。リツイートやお気に入り数字なんて普段読んでないと思ってるけど、やっぱり自分が面白いと思えたものが広まるというのはいいものですね村井さんよりメール。あさって大阪に行くので会いましょ!

2017年3月17日(金)晴れ。夜7時すぎ、梅田のMARUZEN&ジュンク堂書店で村井さんと待ち合わせ。それまで村井さんと打ち合わせをしていた歌人の岡野大嗣さんと、一言あひさせてもらった。隣で村井さんが「人見知り同士の(笑)」、となんか嬉しそうにしている。こないたの1ページ漫画『ギャル 怒りの高校受験』面白かつた、特に手の描写がよかったですと言ってた岡野さんと別れた後、すぐそばのNU茶屋町という施設で川島小鳥×Kanoco 展と『ファーストアルバム〜銀杏BOYZと川島小鳥〜展』をやっていたので、村井さんと二人でそのぞく。通路の一角の、無料で入れる写真展。そのほかビル全体を使って、巨大な写真が天井から吊るされた床に貼られたりもしている。あー自分の1ページ漫画でこういうやりええなあ、と前から考えていたことが、ますますその思いが募る。1ページ漫画は写真と似て、ほとんど目目でその面白さが伝わるから。本というのは多分、こういうイベントもできやすくなる。主催者に依頼が通りやすくなるという意味だけでなく、展示の中心に「本」があると、おもしろいことやろやろやろやすくなると思う。藤岡「床に貼られた巨大なこの写真、いくらいらするんですけど、村井さん! × × 万円ぐらいかあ」NU茶屋町を出て、新大阪駅まで歩きながら話す。村井さん「かばん重くて肩が疲れそう」(予約注文について) 藤岡「特典付きの予約注文とかやらないかと思っ」村井さん「いいですねえ。藤岡さんが汗をかか特典がいらない。一冊一冊、手書きで何かを書くと……」(カバーページについて)「夏がとまらない」とかの部分カラーの漫画を、途中に挟み込みたいねと村井さん。藤岡「冒頭より途中に挟むほうがいいですよ」村井さん「うん、途中のほうがかっこいいですね」(1ページ漫画のタイトル部分について) 藤岡「このままだいか、明朝体にするか、手書きにするか……」村井さん「僕はこのままだいいと思います。この、何もう考えずに適当に付けたような書体が合ってると思えます」(シュリンク<書体>に並んだ時、本に付けられるビジュアルについて) 藤岡「できれば付けずに並べてほしいんですけど、頼めばできるもんなんですけど」村井さん「うん、それは書店によってできなかったりするか……」藤岡「小説はシュリンク付けられないですよ。僕の本も小説扱いに出すとか」村井さん(笑)「試し読み冊子、試し読み用本、ポスターなど、置いてもらえなくてには持ってるんだけど、ほとんどのお店でシュリンクが付けられないこと、WEBで試し読みすらできない漫画がたくさんあるけど、なんなんだと思う。梅田から歩くこと1時間、新大阪に到着。村井さん!本当にこのあつたっつてもないですねえ!藤岡「そうなんすよ!」真夜中の話」の文章を五編ほど書くことにしたので、新しいものをまた来週までと送ることを約束して、村井さんは新幹線で東京へ帰って行った。

2017年3月25日(土)晴れ。内沼晋太郎さんの『本の逆襲』を再読。元気もろ。これ、「本」や「本屋さん」にまつことでもなんかも考えあぐねてる人にはとてもおすすめの本。シネマート心斎橋へ、ナ・ホンジンの新作『笑声×コクソ』を観に行つた。前の席の、頻繁

に左右に動きながら柿の種を食べ続けるおっさんの頭でスクリーンが1/4がずっと隠れていて、40分ぐらいで耐えきれずに席を立った。「すみませんもう少しく頭さげてもええですか」と言って、舌打ちされても嫌だし、あつてめいめいと言ってくれるような人だったとしても、この人ずとそこのことを書き続けて映画に集中できないやろうなとか思ってた、とでも言えらぬ。他の席も埋まっていたので、映画はそれでまあえらめて、近くのスタンダードブックストアへ。これまで1階と地下に売り場があったのだが、地下の営業に力を入れていた。夏葉社の『冬の本』と嵯峨友香さんの新刊がかわろ。堀越謙児の『冬』のサイン本を買ろう。サイン本が初めて買ったかもしれない。思ってたより嬉しいもんな。自分も本できたらサインいっぱい書こう。その帰りで、テラノ配りの人に対して、みんな断りの会釈どころか目線すら向けずに歩き去って、怖かった。自分は微笑みながら受け取ってあげようと思っ手を差し出すと、女性向け化粧品店のチラシだったみたいで無視された。怖かった。

2017年3月26日(日)曇り。ピースと吉さんの『東京百景』を読みながら、自分が今回作る本、正方形サイズにした熱いのが高まっていただけたらいい、形はこいう素朴なのがいいかも、と思っ。新書ぐらいの大きさを、手に馴染みやすいサイズ。なんかすごく「本」って感じがする。

2017年4月2日(日)晴れ。単行本に五編ほど載せる予定のエッセイ「真夜中の話」三編目を書く。

2017年4月3日(月)晴れ。村井さんよりメール。エッセイ、笑いを作ろうとしすぎているように思う、もつと淡くならなくてもいいよなことを書いてみて下さい、と。雑かにならずと肩ひり張った文章だった。「真夜中の話」というくまり方とてみよう。テーマが真夜中だとどうても暗い思っ出ばかりになつてしまふ。たつた数編だとしても、全体までが印象として暗い本になつてしまつてある。明るい本にしたいと思う。餃子を作る。近頃、餃子ばかり作って食べている。鶏がらスープの素とごま油を混ぜてフライパンにひき、水ではなくお湯を差して焼き上げると美味しい。

2017年4月4日(火)晴れ。エッセイではなく、詩はどうかろうか。「少年時代」というタイトルで書き始める。矢萩多聞さんの『偶然の装丁家』読んだ。めっちゃうおもしろかった。

2017年4月5日(水)曇り。詩「少年時代」書き終える。一応OKをもらって『真夜中の話』二編はいつの日か保留にしておらおう。オー・トーマス』(2016年日本/監督:山下敦弘)観た。とてもよかった。2017年4月6日(木)曇り。村井さんよりメール。詩「少年時代」とても良いです、漫画の構つことあるもののようにも思います、と。「真夜中の話」掲載保留の件も了解頂く。

2017年4月7日(金)曇り。新しいエッセイ「手の履歴」を書きはじめる。『サムサッカー』(2005年アメリカ/監督:マイク・ミルズ)を観た。ワインセードノフロアとティルダ・スウィントンの夫婦がとても良かった。ワインセードノフロアは『メン・イン・ブラック』(1997)でエイリアンに体に乗っ取られた農夫のおじさんです。

2017年4月8日(土)雨。「手の履歴」、エッセイというかまたもや詩の土壌になつたけれど、とにかく書き上がる。なんか無性にマリサ・トメイが見たくなったので借りてきた『いとこをみる』(1992年アメリカ/監督:ジョナサン・リン)を観る。判事役のフレック・グレイソンという人が個性的な顔とでっかい手をして、画力(えちがち)がすごかった。マリサ・トメイはやっぱり可愛かった。夜はまた餃子を作って食べる。皮と餡(あん)のあいだに大葉を挟んでも美味しいよ

2017年4月9日(日)雨。『エクス・マキナ』(2015年イギリス/監督:アレックス・ガーランド)を観た。キョウコ(ソノヤ・ミズノ)のダンス・シーンが唐突も含めて最高。大好きな映画『Mr.ビーン』の休日』(2007年イギリス/監督:スティーヴ・ペンデルラック)。この映画で最高に楽しめているエドワード・コーズが出てくるシーンだけに観るつもりが、また全編観てしまった。ビーンと旅を共にする子供を演じる役者に味わいがなく、そこだけがいつももたないなと思っうけなく、とても嬉しい映画。『男はつらいよ』みたいに、Mr.ビーンでもっと何作も映画をつつてほしいです。今日は映画しか観てないけど日記を書いてしまった。単行本制作にまつわるエピソードが特にない日は書かないようにしようと思ったのに。

2017年4月10日(月)曇り。村井さんよりメール。詩「手の履歴」すばらしいです、と、細かい部分をアドバイス頂き、少し直す。詩も、沢山の人の読まれるのが楽しみです。今夜も餃子を作る。そそろスーパーの店員の間で「餃子」と呼ばれていると思う。

2017年4月12日(水)曇り。単行本に載せる三つ目の文章、「手紙」を書く。銀杏BOYZ 藤田伸幸さんの『恋と退屈』(河出書房)を読んだ。素敵な文章、素敵な本だ。最後に載っているリリー・フランクシーさんの文章とても良かった。

2017年4月13日(木)曇り。「手紙」も、村井さんからOK貰う。「真夜中」をテーマに書いた文章、一編だけやれば足りても載せたいものがあり、少し直して送る。これもOK貰う。これら四つ文章ができた。「五番目の文章=あとがき」はブックデザインなども全部決まったあとで、一番最後に書かせてもらうことになった。

2017年4月15日(土)晴れ。単行本に掲載する作品選び。これまでWEBで発表した1ページ漫画、約450本の中から249本を選ぶ。本の値段は高くとも1200円ぐらいに留めたいのだが、大丈夫だろうか?『フ